



学校教育目標  
自分・友だち・まちがすき  
自ら学び 未来へとかがやく名瀬っ子  
～自他を認め合い、自ら考え行動する～

# 名瀬小だより

## 3月号

令和4年2月28日  
横浜市立名瀬小学校  
校長 中嶋 孝宏



## 協働による成長

校長 中嶋 孝宏

令和3年度もまとめの時期となりました。今年度も制限のある中での1年となりました。9月には約一か月にわたる分散登校もあり、年を開けても新たなウイルス拡大防止に向けて気が休まらなく、先が見えない日々が現在も続いております。その中でも、子どもたちは様々な取組や授業に集中し、成長しました。自分の考えをもったり、相手の気持ちも考えようとしたりする子どもたちが色々な活動の場面で見られます。これは子どもたち自身が多くを感じ、考え、取り組んだことによりますが、保護者の皆様の理解と支援によるところもでもあります。地域や保護者の皆様のご理解・ご協力が学校との協働を促進し、子どもたちの成長につながっています。ありがとうございます。

子どもたちの自立に向けた今までの取組や地域、保護者のご意見を踏まえ、「自分や相手を大切にし、考えて行動できる名瀬っ子」が学校目標となります。自分と相手を大切にし、小さな行動ができる先に、自分の人生を自分の力で生きる姿があります。職員一同、保護者の皆様と協働して、子どもたちを育ててまいりますので引き続きよろしくお願いいたします。本年度もPTA本部役員の皆様をはじめ、保護者や地域の皆様に多大なご協力をいただいたことに重ねてお礼申し上げます。

先日、冬季北京オリンピックが閉幕しました。フィギュスケートで羽生結弦選手が史上初となるクワッドアクセル(4回転半)にチャレンジしました。「報われない努力だったかもしれないけど」と話す羽生選手。2大会の王者だからこそ、ジャンプにこだわりました。身体が壊れるかもしれない苦痛に耐え、練習で失敗しても失敗してもチャレンジし続けました。陸上競技に例えるなら、走り幅跳びと背面跳びを同時に決めるような技といえます。

また、スピードスケート1000mで金となった高木美帆選手。2つの強い気持ちで挑みました。1つは、先輩や仲間を今まで見てきて、オリンピックで勝つという強い気持ちが必要だと確信しました。そして、もう1つは、自分ならできるという自分を信じる気持ちでした。高木選手には、どうしても自分には勝てないというライバルがいました。その時、ヨハン・デビットコーチの「同じ人間ができるのに、どうして自分はできないと思うんだ。」という言葉で、自分にはできると思えました。地道な練習の裏づけがあったことは言うまでもありません。

そして、この2つの気持ちは、羽生選手にも備わっています。彼は、アクセルというジャンプにワクワクし、こだわり努力し続けました。3連覇より大きな価値があることを教えてくれたのかもしれない。2人の共通の強い気持ちは、相手に敬意を払い、自分を大切にしている姿そのものです。自分を信じられることのすばらしさを改めて感じさせてくれた瞬間でした。

自分を大切にできることが挑戦する勇気を生み、自信となります。そして仲間と過ごし成長する子どもたちをこれからも見守ってまいります。

